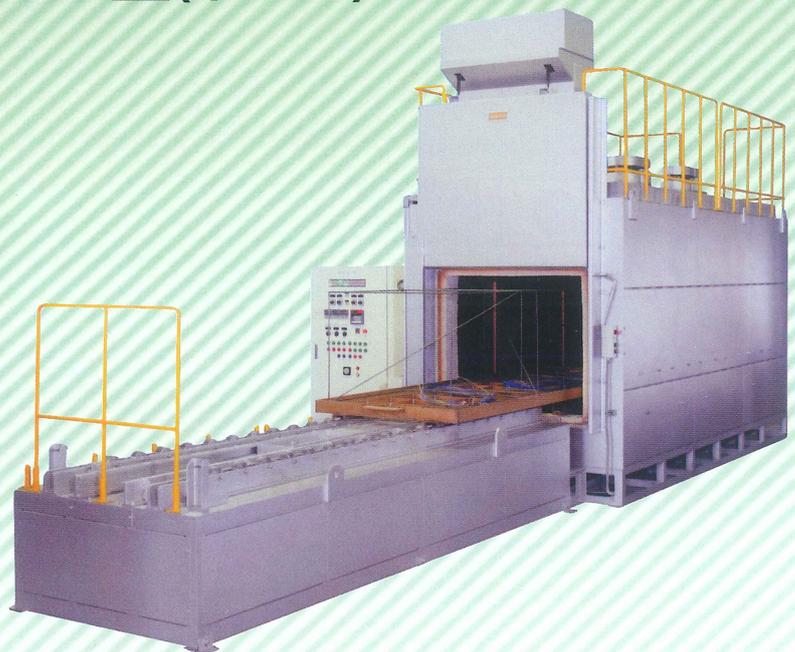
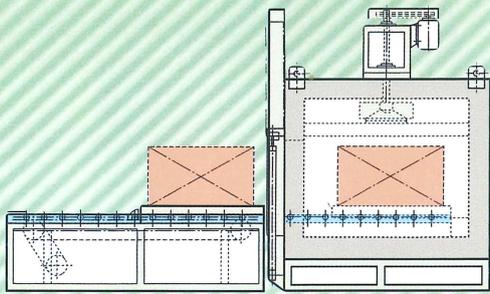


鋼の焼戻し、特に高周波焼入れの後の焼戻しに多く使われています。  
またアルミ合金の熱処理や焼戻し、焼ばめ、溶接後の応力除去焼なましなど、中、多量部品処理用です。  
ローダー・アンローダー装置(オプション)の設置で、重量物でも自動搬出入ができます。  
お客様のご要望により、特注機種も承ります。

## 箱型流気式焼鈍炉 RBT型(中・大型)



### ■ RBT型の特徴

- 使用温度範囲が100~650℃と広く、種々の低・中温熱処理ができます。特に温度分布精度の必要なアルミ合金の精密熱処理に最適です。
- 炉内は風ガイドを取り付け、熱風循環方式となっています。強力なファンによる対流と緻密な温度制御で、精密な温度分布がとれます。
- 保温は、軽量セラミックファイバーを使用して省エネルギーをはかっています。
- ローダー・アンローダー装置(自動搬送用炉前台)を設置すれば、重量物の自動搬出入ができます。
- 炉前部に水槽を設け、自動水冷却をすることもできます。
- 操作方法の選択で、丸型ピット炉(RPT型)もあります。

### ■ RBT型の用途

- アルミ合金の焼なまし、溶体化処理、時効硬化処理、鋼の焼戻し、焼ばめ、その他大気加熱。

